



2020年11月12日

各位

会社名 株式会社トランスジェニック
代表者名 代表取締役社長 福永 健司
(コード番号 2342 東証マザーズ)
問合せ先 取締役 経理財務部長 渡部 一夫
(電話番号 092-288-8470)

2021年3月期通期連結業績予想に関するお知らせ

2020年5月12日に公表いたしました「2020年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」において未定としておりました2021年3月期通期連結業績予想について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想

2021年3月期通期連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	—	—	—	—	—
今回修正予想(B)	10,500	450	400	280	16.12
増減額(B-A)	—	—	—	—	—
増減率(%)	—	—	—	—	—
(参考)前期実績(2020年3月期)	11,046	173	94	△440	△25.38

2. 理由

2021年3月期の通期業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による事業活動への影響を合理的に算定することが困難であったことから未定としておりましたが、この度、感染予防と経済活動の共存に向けた動きが活発化し、経済活動が徐々にではありますが再開されている状況を踏まえ、現時点で入手可能な情報及び上半期の実績等に基づき通期連結業績予想を公表いたします。

なお、今回公表いたしました業績予想は、年度後半に向けて収益が回復傾向にあることを前提とし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による再度の緊急事態宣言の発令等に伴う経済活動への制限につきましては想定しておりません。

また、新型コロナウイルス感染症の収束時期は依然として不透明であり、当社グループを取り巻く環境の不確実性が大きく、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。当業績予想について再度修正が必要となる場合には、速やかに公表いたします。

セグメント別の前期実績と今回予想

	2021年3月期予想		2020年3月期実績		増 減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高		営業利益	
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	%	百万円	%
創薬支援事業	3,200	400	2,795	△10	404	14.5	410	—
T G B S 事業	7,320	200	8,258	369	△938	△11.4	△169	△45.9
(E コマース)	(5,200)	(170)	(5,333)	(81)	△133	△2.5	88	108.2
(その他)	(2,120)	(30)	(2,924)	(287)	△804	△27.5	△257	△89.6
全社調整	△20	△150	△7	△185	△12	—	35	—
合計	10,500	450	11,046	173	△546	△4.9	276	159.0

(注) 括弧内の金額は、T G B S 事業の各内訳金額であります。

セグメント別の上半期(4月～9月)の実績と今回予想

	2021年3月期 第1四半期(4月～6月)実績		2021年3月期 第2四半期(7月～9月)実績		2021年3月期 下半期(10月～3月)予想	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
創薬支援事業	452	△91	773	94	1,974	396
T G B S 事業	1,759	74	1,704	41	3,855	84
(E コマース)	(1,325)	(67)	(1,217)	(41)	(2,657)	(60)
(その他)	(434)	(6)	(487)	(0)	(1,198)	(23)
全社調整	△4	△35	△4	△42	△10	△72
合計	2,207	△53	2,473	94	5,819	408

(注) 括弧内の金額は、T G B S 事業の各内訳金額であります。

(1) 売上高及び営業利益

売上高は10,500百万円(前期比4.9%減)、営業利益は450百万円(前期比159.0%増)となる見込みであります。セグメント別の詳細は下記のとおりであります。

① 創薬支援事業

第1四半期は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、非臨床試験が計画通り進まなかったことや、臨床試験の一部で被験者の募集及び試験実施が困難な状況が生じたほか、製薬企業等からの発注の見合わせもあり、売上低迷を余儀なくされました。当第2四半期に入り、試験の遅れや試験実施が困難な状況は徐々に解消し、受注も回復傾向にあり、この流れが持続するものと見込んでおります。また、新型コロナウイルス検査(PCR検査)の受託を2020年4月に開始し、検査数拡大の流れを受け第1四半期と比較して当第2四半期は受託件数が伸長しております。そして、新型コロナウイルス感染症収束の見通しは現時点ではたっていないため、この傾向が持続するものと見込んでおります。なお、創薬支援事業の売上高は季節の変動が著しく、当社グループの売上高は下半期(特に第4四半期)に集中する傾向にあります。以上の想定のもと、売上高は3,200百万円(前期比14.5%増)となる見込みであります。

利益面につきましては、固定費の削減に努めたことにより損益分岐点が低下しているほか、上半期と比較して稼働率の上昇による原価改善が見込まれ、さらには、前期にはなかったPCR検

査の受託売上も加わることから、営業利益は400百万円（前期は10百万円の営業損失）となる見込みであります。

② TGBS事業

第1四半期及び当第2四半期において、Eコマース事業につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大による景気低迷の影響を受けましたが、一方で巣ごもり需要による商品構成の変化により粗利が改善するとともに、2020年3月に連結子会社化したギャラックス貿易株式会社の業績が寄与いたしました。下半期においても、引き続き景気低迷の影響が見込まれることから通期で減収となるものの粗利が改善することを見込んでおり、売上高は5,200百万円（前期比2.5%減）、営業利益は170百万円（前期比108.2%増）となる見込みであります。

「その他」事業につきましては、下半期は一定の回復は見込まれるものの引き続き景気低迷の影響を受けることが予想され、売上高は2,120百万円（前期比27.5%減）、営業利益は30百万円（前期比89.6%減）となる見込みであります。

（2）経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益

主として上記による影響から、経常利益は400百万円（前期比321.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益につきましても280百万円（前期は440百万円の親会社株主に帰属する当期純損失）となる見込みであります。

以上